

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0992100032		
法人名	有限会社ポブラサポート		
事業所名	グループホームぽぷら		
所在地	栃木県河内郡上三川町大字石田1231番地3		
自己評価作成日	令和 元 年 12 月 20 日	評価結果市町村受理日	令和 2 年 3 月 11 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入所者、家族、職員を含め、大家族が一つ屋根の下で生活しているという考え方の元で、家庭的な雰囲気の中、個人にあったすごし方が出来るよう努めています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/09/index.php>

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は町北部の県道から少し入った農地の混在する集落に位置し、閑静な環境にある。職員は「ともに生きる」という理念のもとに、家庭的な雰囲気を大切に環境づくりとともに利用者の思いや意向を丁寧にみ取りそれぞれに合った個別の支援に努めている。デイサービスセンターと小規模多機能事業所が併設されており、合同で避難訓練や行事を実施したり緊急時には協力し合うなど連携を図っている。昨年12月からは共用型の認知症対応通所介護事業も開始した。利用者の希望により他のユニットや小規模多機能事業所のレクリエーションに参加できる仕組みや備品の整備など職員意見の反映にも努めている。家族の希望によっては訪問診療を実施している主治医と連携し看取りまで行っている。健康器具を設置したり、多様なレクリエーションを取り入れるなどして筋力や心身の健康の保持にも努めている。食事は毎食職員の手作りであり、毎月「そばの日」や「寿司の日」などを設けるとともに、外食や行事食を取り入れて楽しむことができるよう工夫している。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	令和2年2月6日		

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員、理念を理解した上で入居者様と対応している。	理念を玄関やリビングに掲示するとともに、「基本のことば」を毎日の朝礼時に唱和するなどして実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事等に参加し、入居者、職員共につながりを重視し活動している。	コミュニティーセンター等の行事には積極的に参加している。合同で開催する夏祭りや冬のイルミネーションの点灯には地域の方が訪れ交流を図っている。地区のお祭りではお神輿の休憩所となっているなど地域とのつながりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民へ向け、認知症の理解等、情報発信していく予定である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員や入居者のご家族様等参加していただき、意見をかわし運営、活動に生かしている。	家族や町職員等通常のメンバーの参加により2か月ごとに開催している。時には家族を中心とした茶話会にしたり、警察署職員の講話を聞いたり工夫している。ヒヤリハットの報告などもあり、そこでの意見を運営に反映するよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	上三川町職員の方に参加していただき運営状況の報告をし助言等いただいている。	運営推進会議で取組状況を伝えているほか、介護保険制度などでわからない事があればすぐに電話で助言を得るなど協力関係を築くよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は全くせず職員が入居者様に対し常にアンテナをはる様心がけている。 夜間のみ施錠、センサーを施工している。	3か月ごとに虐待防止委員会を開催し、アンケートを取ったり理解度を確認するなどして身体拘束をしないケアの実践に努めている。言葉かけにも注意しあうとともに日中は玄関の施錠をしないようにするなど精神的な抑圧とならないよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会、講習等で注意喚起し職員間でも日頃話題にし意識している。		

グループホームぽぷら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	まだ活用する機会は無いが必要になった際、対応出来るよう職員全員学ぶ機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者様やそのご家族様がもつ疑問点、不安な点については答えられるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段から来ていただいたご家族様からのご意見、要望等を聞けるようにし、反映したものに關してはご家族様に報告している。	利用者からは普段のケアの中で要望等を丁寧に聞き取るよう心掛けている。家族からは運営推進会議や面会時によく聞くようにしている。電話で連絡を取ったり、広報誌や手紙を送付するなどしてコミュニケーションを図り、意見の出やすい雰囲気づくりに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務改善委員会にて全スタッフに意見書を提出してもらい、運営に反映している。	管理者は普段から職員とのコミュニケーションをとり、意見等の出やすい雰囲気づくりに努めている。法人としても認知症対応通所事業やセレクトレクリエーションを取り入れたり、備品を整備するなど職員意見の反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のやりがい、向上心が削がれないよう不安や不満の解消に心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりの介助の力量を把握し、実際の介助の中で話し合いトレーニングできる様心がけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員各々が同業者との交流の中でネットワーク作りや各々の職場でのケースを話しながら勉強している。		

グループホームぽぷら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様本人はもちろん、ご家族様の不安にも耳を傾け解消し安心していただく事で、信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の不安や不満を真摯に受け止め、解決策をご家族様にも一緒に考えていただき、答えを導きその過程で信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアプランに目を通し入居者様を見て対応できる様務めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様本人が出来ることをなるべくやっていただけよう促し、その際職員も一緒のことをやることにより関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に入居者様の近況を報告し、ご家族様の助言を参考にし、入居者様を支えていけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の祭りやイベント、買い物等で入居者様が地域との関係が続くように心がけている。	友人の訪問の際にはお茶やお茶菓子を出しゆっくりと寛げるよう配慮している。馴染みの神社に初詣に行ったり、町のサンフラワー祭りに参加するなどの支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニット内のレクリエーション等で入居者様同士が関わりあい、孤立しないよう心がけている。		

グループホームぽぷら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了になった後に本人やご家族との支援を行う機会はまだない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	望みを叶える介護に取り組んでいる。	普段の会話の中で丁寧にくみ取るよう心掛けている。困難な場合には表情や動作などから推し量るとともに、職員間で話し合い提案をするなど、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートの活用、ご家族様のお話等を参考に入居者様が生活しやすいよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ADLの把握、日々の状態観察等で入居者様が出来ること、やりたいことをしていただき対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース議事録、申し送りノートにて本人の課題、ケアに向き合い取り組んでいる。	利用者、家族からの要望等を聞き、毎月ケース会議を開いて介護計画を作成している。変化が合った場合には全職員から意見を求めている。基本的には6か月ごとに見直しをしているが、状態が変わったときはその都度見直しをするなど適切に作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録、申し送り等を活用し職員間で共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様やそのご家族様の意見を随時聞き対応している。		

グループホームぽぷら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のイベントや近所への買い物等で出来る限り地域交流できるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人の希望による医師、病院を選択していただいている。	利用者、家族の希望するかかりつけ医としているが、ほとんどが訪問診療を利用している。整形外科や眼科は家族支援による受診を基本としているが、受診時には状態を書いた手紙を家族に渡したり、時には同行したりして医療機関や家族と情報の共有に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホーム内に看護職員を配置しており、入居者様の体調管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリーの記録や情報支援により看護職員を中心に連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアの外部研修をスタッフ全員が受講し、チームとして支援に取り組んでいる。	毎年ターミナルケアについて外部研修を受講するなど知識や技術の習得に努めている。家族の要望に応じて、訪問診療を実施している主治医と連携し看取りまで行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員が各々応急手当や心肺蘇生法の講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	各ユニットで避難させる優先順位、方法を職員全員が理解している。	年2回夜間想定も含め、通報避難訓練を実施している。避難させる優先順位や方法なども理解している。今後、水害や地震を想定した独自の訓練も予定している。水・食料・カセットコンロ等の備蓄もある。	災害時には地域住民の協力が必要となるため、緊急連絡網への登載や避難時の見守りなど具体的な役割について地域住民の協力が得られるような働きかけを期待したい。

グループホームぽぷら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様個々の情報を把握し、それに応じた対応を行いプライバシーを損なわぬよう心がけている。	名前は苗字にさんづけで呼んでいる。居室への入室時には必ずノックをしたり、排泄の誘導時には他の利用者に聞こえないよう耳元で声掛けするなど羞恥心にも配慮している。広報誌等への写真の掲載に当たっては入居時に確認をとっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の希望には出来る限り応え、じっくり考えていただき自己決定が出来るよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のペースで本人の希望に添った対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の整髪、入れ歯の装着、ヒゲそり等、入居者様が1日どこへいっても過ごせるよう対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の意見を取り入れ毎週献立を作成している。	地元のスーパーなどで食材を仕入れ、毎食職員が利用者の好みや希望も取り入れながら手作りしている。利用者も食器洗いや盛り付けなどできる範囲で一緒に行っている。毎月「そばの日」「寿司の日」などを設けたり、外食や、バイキングなどを取り入れるなど楽しみとなるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日に摂っていただきたい栄養、水分量を職員、訪問診療のドクターと話し合い対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きを促し、義歯の洗浄の促しを行っている。		

グループホームぽぷら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の内部研修を行い、スキルアップを心掛けている。	パターンを把握して早めの誘導をするなどトイレでの排泄を支援している。4月には利用者の立場に立って不快のないおむつ交換の勉強会を実施した。できる限りおむつからリハパンや布パンに移行できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操で体を動かし水分を充分摂っていただき、1日3食の食事をしっかり摂っていただくよう促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	望んだ時間に提供している。 夜間入浴も行っている。	週3回程度の入浴となっているが、毎日入浴する利用者もいる。拒否者には担当者や言葉かけ、時間を変えたりと工夫している。夕方の時間帯を基本としているが、夜間入浴など柔軟に対応するとともに、入浴剤や季節のゆず湯などを取り入れ楽しむことができるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様が入眠しやすい環境(明るさや音)に気を使い対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師からの薬剤情報に目を通し注意が必要な内容は周知、徹底する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	地域のイベント、施設のイベント、季節に応じた行事にて対応している。 日々なるべく室内にずっといないよう気をつけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	墓参り、外食など希望に添って外出支援を行っている。	天気の良い日には敷地内の庭を散歩したりドライブなどの支援をしている。利用者の希望を把握し年間行事を立て、お花見や県庁展望台などに出かけている。茨城県的那珂湊港まで行き海鮮丼を食べてくるなど、普段行けない場所への外出も支援している。	



グループホームぽぷら

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持可能な入居者様に少額所持していただき一緒に買い物に行き、買い物を行っている。所持できない方は職員と一緒に買い物だけでもしていただく。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望により、電話も手紙もやり取りが出来るよう努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その時々合った温度、湿度は体調管理に関わるので細心の注意をしている。その他、行事等に応じて飾りつけ等、入居者様と一緒にやっている。	建物全体が檜を多く取り入れ、木のぬくもりが感じられる。リビングは天井が高く開放感がある。室内は明るく職員による清掃が行き届いている。リビングや浴室には床暖房が設置されるとともに温湿度とも適度に職員が管理している。リビングには季節の花や利用者の作品等を飾り、生活感や季節感を感じさせている。ソファなどを配置し利用者が寛げるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様がひと息つける場所を提供できる様努め、一人でも複数でも楽しく安心して過ごせるよう心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が目に入って安心する物があれば置いていただき、極力安心して過ごせ、安眠できるよう心がけている。	洗面台やエアコン等設備は整っている。タンスや日用品、仏壇、遺影などの配置や、写真や作品等好みの物の掲示は本人や家族と相談し、本人が居心地よく過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置はもちろん、入居者様の能力に応じて歩行器や杖の使用の提案を行っている。		